

新型コロナウイルス感染症に係る農林水産業への影響と対応について

【農林水産業における影響】

1 調査の概要

新型コロナウイルスにより、社会経済活動への影響が長期間に及んでいることを踏まえ、前回調査（9月）以降の農林水産業への影響について、県内農林漁業者及び関係団体に対し聞き取り調査を実施した。

【調査期間】令和3年10月25日から11月12日まで

【調査数】182（農業101・畜産業31・水産業17・林業33）

2 分野別の主な状況

（1）農業

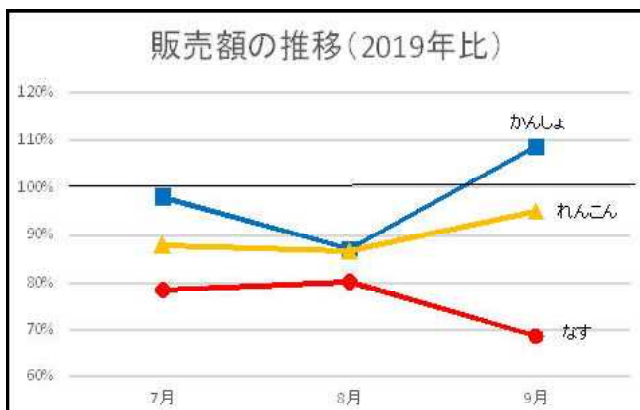
- ・ 家庭消費が中心の野菜・果実の販売は概ね堅調に推移しているが、業務需要の比率が高い品目は、単価安が続いている
- ・ 米は外食産業の需要減少により、全国的に20年産の在庫を抱え、買取価格が低下した
- ・ 「すだち」は販売不振が続いているが、「つまもの」、「花き」では緊急事態宣言解除後は、販売が回復しつつあるという声もある

① 売上げの状況（2021年：9月期・10月期実績、11月期見込みの状況）

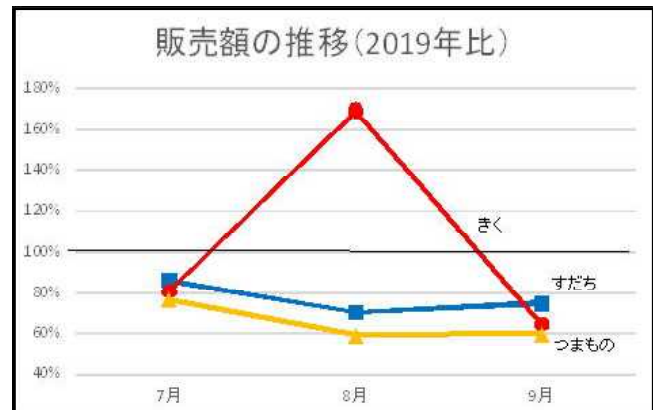
	減少した	変わらない	増加した
2019年比	46%～33%	39%～30%	12%～10%
2020年比	48%～29%	42%～24%	20%～10%

② 市場販売の状況

- ・ 「かんしょ」は、他産地の入荷減少により単価高、「れんこん」は、業務向け販売が振るわず、「なす」は、天候不良により出荷量が減少
- ・ 「すだち」、「つまもの」は、厳しい販売が続き、「きく」は、出荷前進化により8月に急伸するも、9月は反落



東京・大阪市場販売状況 県調べ



東京・大阪市場販売状況 県調べ
 関西生花市場市況

③ 生産者等の声

現状について

- ・ 全国的な需要減少に伴う米価下落（水稻）
- ・ 県外産地の病害発生による入荷減で、販売単価が上昇（かんしょ）
- ・ 例年と特に変わりはない（ねぎ、梨、けいとう）
- ・ 露地すだちは、豊作で出荷量は多かったが、外食需要の低下により単価安、冷蔵ものに切り替わっても、単価安が続いている（すだち）
- ・ 販売単価は例年並みにまで回復したが、大雨被害で出荷量は減少（きく）

（※緊急事態宣言解除後の変化について）

- ・ 変化は感じられない（水稻、かんしょ、れんこん、すだち等）
- ・ 10月に入り注文は戻ってきたが、コロナ前までは戻っていない（つまもの）
- ・ ブライダルなどイベントが増加している（花き）
- ・ 県外客が増加している（農産物直売所）

今後について

- ・ 年末年始にかけ、外食産業の需要回復が待ち望まれるが、第6波の襲来を懸念している（水稻、野菜全般）
- ・ 業務需要は少しずつ回復しているが、コロナ前には戻らない可能性があるため、消費拡大の取組みが必要（野菜全般）
- ・ 燃油や資材など経費が上がり、経営が圧迫されている（ねぎ）
- ・ 宣言解除後も価格が回復しておらず、今後の心配（冷蔵すだち）
- ・ 生産意欲が落ちており、注文が戻っても応えられない可能性（つまもの）
- ・ 人件費や資材費の上昇が先行し、価格への反映が遅れる（生しいたけ）

県のコロナ対策について

- 「徳島県産香酸柑橘等産地強化支援促進事業」
 - ・ 産地への支援、未開拓市場へのPRなど有意義
 - ・ 新たなことにチャレンジができ、ありがたい
- 「徳島県産花きの需要喚起応援事業」
 - ・ 大きな影響を受けた花きの需要喚起のために有効、継続的な支援を

(2) 畜産業

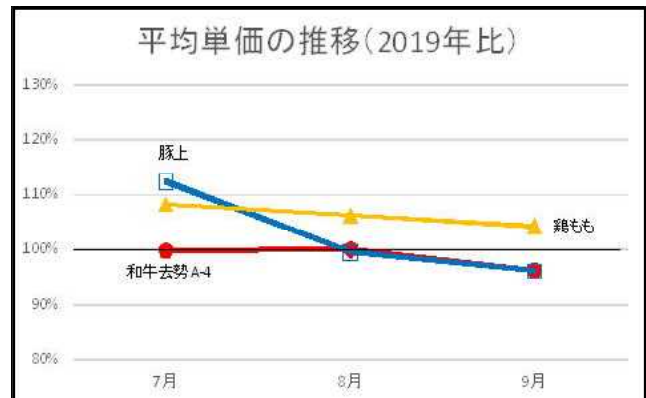
- ・ 本県産畜産物の販売は、引き続き堅調に推移している
- ・ 「阿波尾鶏」など高価格帯品目については、厳しい販売状況が続いている

① 売上げの状況（2021年：9月期・10月期実績、11月期見込みの状況）

	減少した	変わらない	増加した
2019年比	32%～29%	58%～55%	10%
2020年比	29%～26%	68%～61%	10%～3%

② 市場販売の状況

- ・ 和牛肉、豚肉ともに、堅調な相場が続いており、ブロイラーは、コロナ前より高い水準で推移している



大阪中央卸売市場 市況情報
農林水産省 食鳥卸売価格の旬別動向 (東京都)

③ 生産者等の声

現状について

- ・ 販売状況に変化はない（肉用牛）
- ・ 家庭内消費は良いが、外食産業への販売はまだ回復していない（養豚）
- ・ 高価格帯商品や外食向け商品の販売は不振（阿波尾鶏）
- ・ 家庭向け量販店の販売は好調（ブロイラー）
- ・ 業務、加工用の売上げが低調（鶏卵）
- ・ 飼料価格の高騰（酪農）

(※緊急事態宣言解除後の変化について)

- ・ 牛肉需要は、徐々に増加傾向にある（肉用牛）
- ・ 外食産業の需要回復には時間がかかる（養豚）
- ・ 高価格帯商品の販売は苦戦が続いている（阿波尾鶏）
- ・ 需要の回復には一定の時間が必要（採卵鶏）
- ・ 変化はなく、牛乳の消費は伸び悩み（酪農）

今後について

- ・ 飼料代や燃油代などの経費負担が増加（肉用牛）
- ・ 飼料代、輸送コストの増加による利益減少を懸念（養豚）
- ・ 消費宣伝と将来のための生産基盤の維持が必要（阿波尾鶏）
- ・ コロナの沈静化による消費拡大に期待（採卵鶏）
- ・ 牛乳の消費喚起の取組みが必要（酪農）

県のコロナ対策について

■ 「『新しい生活様式』に対応した徳島県産畜産ブランド販路拡大強化事業」

- ・ 滞留在庫の削減や新たな販路開拓に繋がった（肉用牛、阿波尾鶏）

(3) 水産業

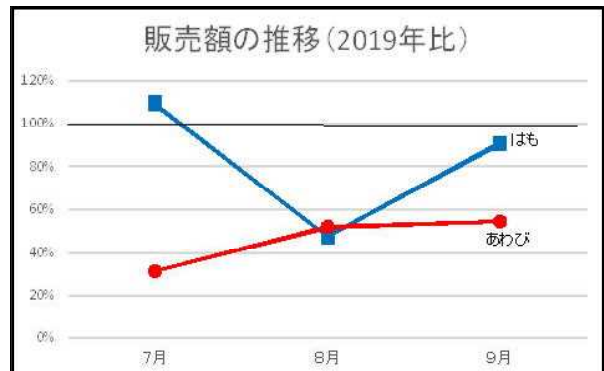
- ・ 外食産業で使用される高価格帯品目は、販売の不振が続いているが、緊急事態宣言解除後は、徐々に回復しているという声もある
- ・ 高価格帯に限らず、全般的に相場がコロナ禍前よりも低下している

① 売上げの状況（2021年：9月期・10月期実績、11月期見込みの状況）

	減少した	変わらない	増加した
2019年比	59%～53%	29%～24%	12%～6%
2020年比	65%～47%	41%～18%	18%～6%

② 市場販売の状況

- ・ 「はも」は、単価安を背景に、業務用から量販店での販売にシフト
- ・ 「あわび」は、単価低迷に伴う出荷控えが継続



大阪市中央卸売市場 市況情報

③ 生産者等の声

現状について

- ・ 漁獲はあるが、販売単価が安い（シラス）
- ・ 今シーズンの販売は厳しい状況（アワビ）
- ・ 少しずつ単価が上昇している（マダイ）
- ・ 漁獲が多く、浜値もますます（イセエビ）

(※緊急事態宣言解除後の変化について)

- ・ 販売状況に変化は見られない（ワカメ、ハモ、シラスなど）
- ・ 10月中旬頃から県外客が増加している（水産物直売所）
- ・ 市況は好転しているが、船舶燃料費や輸送コストが上昇し利益が出ない

今後について

- ・ 販売の見通しは、当面の間変化がないと思われる
- ・ 低下した販売単価が元に戻るのか不安
- ・ 消費の回復を期待するが、第6波の襲来と緊急事態宣言の再発令を懸念
- ・ 巣ごもりが定着し、外食を抑える傾向がどこまで解消されるのか不安

県のコロナ対策について

■「届け『海の幸』需要回復推進事業」

- ・ 滞留在庫の削減や新たな販路開拓に繋がりが良かった

(4) 林業

- ・ 木材は「ウッドショック」により、県産材への需要がこれまで以上に高まっており、素材の増産が急務となっている

① 売上げの状況（2021年：9月期・10月期実績、11月期見込みの状況）

	減少した	変わらない	増加した
2019年比	30%～18%	36%～33%	39%～27%
2020年比	15%～12%	42%～24%	55%～39%

② 市場販売の状況

- ・ スギ原木の販売価格は、コロナ前の水準を上回り、好調を維持



県内市場状況 県調べ

③ 生産者等の声

現状について

- ・ 木材価格は上昇したまま推移しており、販売状況は好調（原木）
- ・ ウッドショックの影響で建築着工が減少（製材品）
- ・ 輸入材から国産材へのシフトが続いている（製材品）
- ・ 原材料不足により生産、売上げが減少（チップ）

(※緊急事態宣言解除後の変化について)

- ・ これといった変化は見られない（原木、製材品）
- ・ 中小工務店の受注が減少し、大手住宅メーカー中心の動き（木材製品）

今後について

- ・ スギは停滞感が見える、ヒノキは現状を維持（原木）
- ・ 需要は旺盛であり、半年程度は現状価格で推移（原木）
- ・ 県内では新築着工数が落ち込んでおり、厳しい状態（木材製品）
- ・ 原木の調達、原材料不足が不安（チップ、製材品）

県のコロナ対策について

■ 「山の仕事を守るコロナ対策緊急支援事業」

- ・ 境界明確化や地籍データを活用し、森林整備の第1歩となった
- ・ 雇用の継続に繋がった

【主な支援策の状況】

○県産農林水産物の需要喚起

事業名	予算額 (千円)	取組内容	担当課
徳島県産花きの需要喚起応援事業	10,000 (15か月)	・ 公共施設等を活用した県産花きのPR 展示やキャンペーンを実施	もうかるブランド 推進課
「新しい生活様式」に適應した 徳島県産畜産ブランド販路拡大強化事業	100,000 (15か月)	・ 「ターンテーブル」レシピを用いて、 県産畜産物を県内学校給食に提供 ・ 外食産業等と連携し、県産畜産ブラン ドのメニューフェア・PR活動を実施	畜産 振興課
学校給食等「阿波尾鶏」利用拡大事業	22,000 (9月補正)	・ 「阿波尾鶏」を県内学校給食に提供 ・ 首都圏はじめ大消費地や、東北地方・ 北海道での販売促進活動を実施	畜産 振興課
届け「海の幸」需要回復推進事業	140,000 (15か月)	・ 出前食育活動とともに県産水産物を県 内学校給食へ提供 ・ 飲食店や量販店等において、県産水産 物の試供品提供によるPR活動を実施	水産 振興課
水産物需要喚起推進事業	30,000 (9月補正)	・ 県漁連や市場関係者と連携し、県内や 首都圏の飲食店等での水産物キャン ペーンを実施	水産 振興課

○市場開拓・販路拡大、生産体制強化

事業名	予算額 (千円)	取組内容	担当課
徳島県産香酸柑橘等の産地強化支援 事業	55,000 (15か月)	・ フードサービス事業者や県内宿泊施設 等へのサンプル提供 ・ 東北地方等への販路拡大、販促活動 ・ 安定生産、品質向上に向けた土壌水分 管理技術やGAPの普及促進	もうかるブランド 推進課
県産米「あきさかり」需要拡大支援 事業	3,000 (9月補正)	・ 関西圏を中心に、新たな販路開拓や認 知度向上の取組みを支援	もうかるブランド 推進課
園芸産地生産体制強化事業	60,000 (9月補正)	・ 加温施設園芸品目について、スマート 技術の導入や施設補強など生産体制強 化の取組みを支援	もうかるブランド 推進課
輸出事業者販路開拓支援事業	3,500 (9月補正)	・ 国内で開催される輸出向け展示会への 出展やバイヤー招へい費用を支援	もうかるブランド 推進課
山の仕事を守るコロナ対策緊急支援 事業	50,000 (15か月)	・ 林業従事者の雇用を守り、木材需要回 復に即応できる作業道の開設や架線の 設置等を支援	スマー ト 林業課
ウッドショック緊急対策 県産材安定供給対策事業 乾燥材供給体制整備事業	50,000 198,000 (9月補正)	・ 増産に対応した高性能林業機械や苗木 運搬用大型ドローンの導入を支援 ・ 製材工場への乾燥機の導入支援と乾燥 技術の普及により供給体制を整備	スマー ト 林業課
持続的漁業生産緊急支援事業	24,000 (9月補正)	・ 「トコブシ」「アジアカエビ」等の資源 保護に向けた標識放流や、漁獲データ を収集	水産 振興課